



# たてやま おらがんまつち

2019.12 No.43



## 地域の自慢

洲宮地区は市内から国道410号線の切割を少し過ぎた辺りから、国道を挟み、洲宮川が平砂浦に注ぐ辺り迄の細長い地域です。以前は、砂地を生かした「洲宮の西瓜」がブランドとして多く生産されていましたが、今は花栽培農家が変わってきました。

毎年一月一日に行われる「御田植祭」、八月の例大祭、九月の安房国司祭への出祭、風雨の災いが少ない事への感謝する「風祝い」、十一月の新嘗祭や御狩祭など毎月なにかしらの行事が多く行われています。

現社地や南方の山「魚尾山（兔尾山とも）」からは、古代祭祀遺跡と伺える土器が発掘されています。その歴史の深さを物語っています。祭礼時に「御浜出神事」が挙行される明神山あたりは、大昔は山麓まで海が迫っていて、今もこのあたりは畑から貝殻などが出土されています。

古代からの生活が育まれてきた歴史を感じる、1000世帯ほどの人達が営む長閑な自慢の地域です。

# 洲宮

すのみや

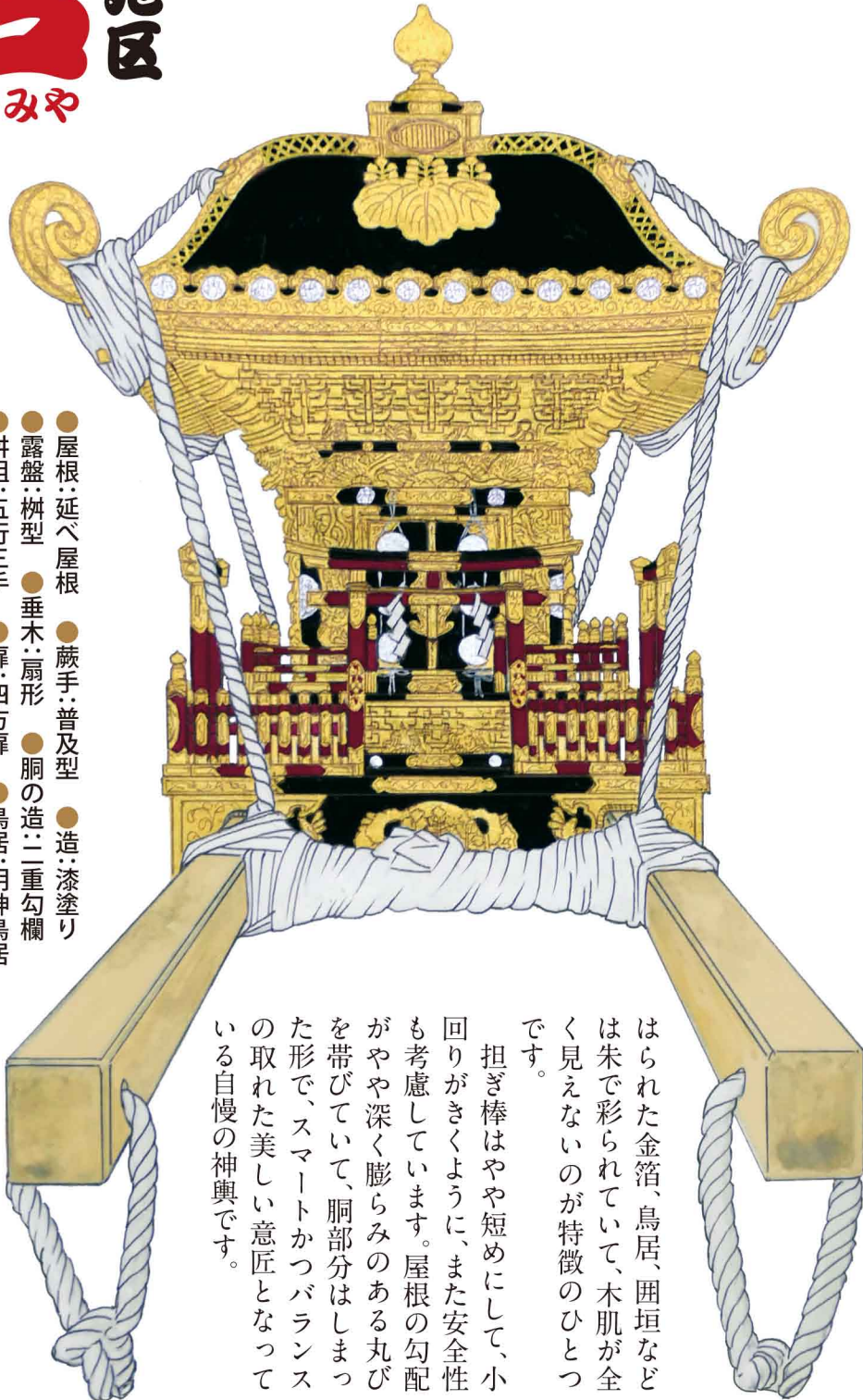
## 龍山市神戸地区

## 自慢の神輿

洲宮区自慢の神輿は八月初旬の洲宮神社例大祭、九月中旬の安房国司祭（やわたんまつち）に出祭しています。

昭和五十年と平成十一年には、室町時代に創業してから十六代五百年続いたと言われる行徳の浅子神輿店にて大修理が行われました。

神輿の屋根には五七の桐紋が輝き、美しい黒の漆で塗られた神輿本体と、垂木、斗組、彫刻に



- 屋根：延べ屋根 ● 葺手：普及型 ● 造：漆塗り
- 露盤：柵型 ● 垂木：扇形 ● 胴の造：二重勾欄
- 舳組：五行三手 ● 扉：四方扉 ● 鳥居：明神鳥居
- 台輪：普及型 ● 台輪寸法：3尺4寸
- 制作者／制作年：不明

はられた金箔、鳥居、圍垣などは朱で彩られていて、木肌が全く見えないのが特徴のひとつです。

担ぎ棒はやや短めにして、小回りがきくように、また安全性も考慮しています。屋根の勾配がやや深く膨らみのある丸びを帯びていて、胴部分はしまった形で、スマートかつバランスの取れた美しい意匠となっている自慢の神輿です。



黒の漆の屋根に輝く五七の桐紋



金箔と朱で彩られた鳥居や圍垣

近藤画

